TADOKU JUNIOR　イギリスの昔話　★★★☆☆ ふつう　294語

Master of All Masters

ご主人さまの中のご主人さま

Joseph Jacobs（1890年の本）　**原文そのまま**　朗読：Joy Chan

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　へんてこなおじいさんの家では、ベッドもネコも火も、ぜんぶへんな名前でよばなくてはなりません。そしてその夜、大さわぎが！



A girl once went to the fair to hire herself for servant. At last a funny-looking old gentleman engaged her, and took her home to his house. When she got there, he told her that he had something to teach her, for that in his house he had his own names for things.

He said to her: “What will you call me?”

“Master or mister, or whatever you please sir,” says she.

He said: “You must call me 'master of all masters.' And what would you call this?” pointing to his bed.

“Bed or couch, or whatever you please, sir.”

“No, that's my 'barnacle.' And what do you call these?” said he pointing to his pantaloons.

“Breeches or trousers, or whatever you please, sir.”

“You must call them 'squibs and crackers.' And what would you call her?” pointing to the cat.

“Cat or kit, or whatever you please, sir.”

“You must call her 'white-faced simminy.' And this now,” showing the fire, “what would you call this?”

“Fire or flame, or whatever you please, sir.”

“You must call it 'hot cockalorum,' and what this?” he went on, pointing to the water.

“Water or wet, or whatever you please, sir.”

“No, 'pondalorum' is its name. And what do you call all this?” asked he, as he pointed to the house.

“House or cottage, or whatever you please, sir.”

“You must call it 'high topper mountain.'”

That very night the servant woke her master up in a fright and said: “Master of all masters, get out of your barnacle and put on your squibs and crackers. For white-faced simminy has got a spark of hot cockalorum on its tail, and unless you get some pondalorum high topper mountain will be all on hot cockalorum.” .... That's all.

あるとき、ひとりのむすめが、めしつかいとしてやとってもらおうと、市へ出かけました。とうとう、へんてこなおじいさんがむすめをやとって、自分の家へつれて帰りました。家に着くと、おじいさんはむすめに、教えておくことがある、と言いました。自分の家では、ものにとくべつな名前をつけているというのです。

おじいさんはむすめに言いました。「わしのことは何とよぶかね？」

「ご主人さまでも、だんなさまでも、おすきなように」とむすめは言いました。

おじいさんは言いました。「わしのことは『ご主人さまの中のご主人さま』とよびなさい。では、これは何とよぶかね？」と言って、自分のベッドを指さしました。

「ベッドでも、ねどこでも、おすきなように、だんなさま。」

「いや、それはわしの『バーナクル』だ。では、これは何とよぶかね？」と、自分のズボンを指さして言いました。

「半ズボンでも、ズボンでも、おすきなように、だんなさま。」

「それは『スクイブ・アンド・クラッカー』とよびなさい。では、これは何とよぶかね？」と、ネコを指さしました。

「ネコでも、ニャンコでも、おすきなように、だんなさま。」

「それは『ホワイトフェイス・シミニー』とよびなさい。そして、これは」と火を見せながら、「何とよぶかね？」

「火でも、ほのおでも、おすきなように、だんなさま。」

「それは『ホット・コッカローラム』とよびなさい。では、これは？」と、水を指さしながらつづけました。

「水でも、しずくでも、おすきなように、だんなさま。」

「いや、それの名前は『ポンダローラム』だ。では、これぜんぶは何とよぶかね？」と、家を指さしながらたずねました。

「家でも、小屋でも、おすきなように、だんなさま。」

「それは『ハイ・トッパー・マウンテン』とよびなさい。」

ちょうどその夜、めしつかいのむすめは、あわててご主人をおこして言いました。「ご主人さまの中のご主人さま、バーナクルから出て、スクイブ・アンド・クラッカーをはいてください。ホワイトフェイス・シミニーのしっぽに、ホット・コッカローラムの火のこがついてしまいました。ポンダローラムを持ってこないと、ハイ・トッパー・マウンテンがすっかりホット・コッカローラムになってしまいます！」……おしまい。

たんご と クイズ　ご主人さまの中のご主人さま

bed ベッド	**cat** ネコ	**fire** 火
water 水	**house** 家	**tail** しっぽ

Q1 おじいさんは、ネコを何とよばせた？

① ホット・コッカローラム　② ホワイトフェイス・シミニー　③ ポンダローラム

Q2 その夜、何が起きた？

① ネコのしっぽに火がついた　② どろぼうが入った　③ 雨もりがした

こたえ

Q1　②　ネコは「ホワイトフェイス・シミニー」。「ホット・コッカローラム」は火、「ポンダローラム」は水のことでした。

Q2　①　ネコのしっぽに火のこがついたので、むすめは、水がないと家が火事になると、ご主人をおこしました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #7439（Joseph Jacobs、1890年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Joy Chan（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。